

「湖上の奇跡」

マタイの福音書 14 : 23~36

マルコの福音書 6 : 45~52

ヨハネの福音書 6 : 14~21

パンの奇跡を見た群衆は、主イエスの素晴らしさに驚き、主から離れなくなり、さらには、主イエスを王様に祭り上げようとする者まで出てきた。目の前のことしか分からない群衆に、主イエスは山に一人、隠れられた。山で、父なる神に弟子たちのために祈られたのである。

嵐が待っている。嵐が来る。湖の嵐だけではない、1年後の十字架、その後紀元 313 年まで続く、大迫害の嵐である。それを見越し、主は弟子たちだけを先に行かせられたのである。

しかし主イエスは、嵐の中の弟子たちを決して忘れておられない。見捨てられない。まず、山上から丸見えの彼らのために、祈っていて下さる。そしてどんな嵐が来ても、主が共にいて、御声をかけ、助けて下さるから、恐れなくてもよい。主イエスは弟子たちに、この信仰に基づく体験を与えられたのである。

今の時代の私たちも、小舟を湖の上に浮かべているような地上の生涯ではないだろうか。しかし栄光の主イエスは、御国で両手を挙げて祈っていてくださる。そして、主を信じて祈るなら結果は不思議な助けがあり、奇跡がなされ、臨在の主の栄光を見させて頂けるのである。

[聖書の学び]

I、山頂の主イエス

(ヨハネ 6 : 14~21 p188、マルコ 6 : 45~48 p78)

1、僅かなパンと魚を、男だけでも 5000 人以上の人々に食べさせた奇跡を見て、人々はどうしようと思いましたか？ (ヨハネ 6 : 15)

2、その事に気づかれた主イエスは、どのようにされましたか？

(マルコ 6 : 45)

3、山の上の主イエスから見た弟子たちの様子は、どうでしたか？

①夕方・・・舟は湖の真ん中 (マルコ 6 : 47)

⋮
⋮
⋮

この間、12 時間程、悪戦苦闘していた弟子たち。

前の嵐の時の事を思い
出さなかったのか？

②夜明けが近づいている頃・・・弟子たちは向かい風のため、漕ぎあぐねている
(マルコ 6 : 48)

II、湖上の主イエス

(マルコ 6 : 49~50 p79)

1、困っている弟子たちを見られた主イエスは、どうされましたか？

①湖の上を歩いて、弟子たちの処へ行かれた。(マルコ 6 : 49 p79)

②弟子たちの舟のそばを、通り過ぎるつもりだった。←どうしてでしょうか？

2、水の上を歩かれる主イエスを見て、恐れる弟子たちに、主イエスは何と言われましたか？ (マルコ 6 : 50)

3、ペテロの行動から学ぶことは、何でしょうか？ (マタイ 14 : 28~31 p70)

①主イエスによるなら、人間のペテロも水の上を歩ける。(マタイ 14 : 28~29)

②主イエスではなく、現実が心に入って来て、主を疑うと失敗する。

(マタイ 14 : 30)

③ペテロを叱られた主イエスの言葉は、どのような意味があるのでしょうか？

(マタイ 14 : 30)

「疑う」=不信仰は ダメです !!

Ⅲ、舟の中の栄光の主イエス

1、主イエスが舟に入られると、舟の中はどうなりましたか？

①小舟のような私たちの内に、主イエスが入って下さると、どうなりますか？

(マタイ 14 : 32)

②弟子たちにハッキリ分かったことがあります。神ご自身であり、私たちの信仰の対象はどなたでしょうか？

(マタイ 14 : 33)

【祈り】 私は困難に遭うと、そればかりが心を覆い、恐れや不安に陥ってしまいます。
どんなときも、神である主イエス様を見て、信じて歩む者になしてください。

*** ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日の学び、「信仰の目を主イエスに向けて歩む」ことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。